

旅の途上、武蔵は梅軒チェーンのソバ屋に立ち寄った。ソバ屋として功を成した梅軒、その梅軒と死闘を繰り広げた、今は駆け出し記者の己。昔日の感に打たれる武蔵であった。と、さきほどから数匹のハエが自分にまとわりついてくる。武蔵は一瞬粗いを定めて後、飛び回るそれをひよいと箸でつまみ、そして、それをバクツと食べた。数匹のハエをそのようにバクバクした後、何事もなかったかのように武蔵はまたソバを食べる。と、その様子を瞠目していた武士がいた。「飛び回るハエを箸で……しかもそれを食ってしまうとはなんと汚い……いや、手練の技か」。武士は武蔵に話しかけた。「卒時ながら、拙者はバッファロー家に仕える者。貴殿はいずれ名のあるお方とお見受けするが……」「バッファロー家?」「あ、いやいや、元は柳生と申しておったのだが、どうも英語のほうが大RENディだとわが主が仰せでな」「ヤギユウ?! それはあの?」「いかにも、あのヤギユウでござる。ははは。ぜひ貴殿を当家の主にお引き合わせたいしたい。ささ、座ってないで立たんか……」「おお! タタンカー! ぜひに!」武蔵は映画「ダンスウィズウルブス」の主人公になった心持であった。このときから武蔵は異名として「ハシでハエをつかんで食う男」と名乗った。